
或るエゴイストの場合

上村凌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

或るエゴイストの場合

【Nコード】

N4695L

【作者名】

上村凌

【あらすじ】

とあるエゴイストの末路を一人称視点で描く。

僕は駄目人間です。何をやっても上手くいきません。何処か他人と違っているのかも知れませんが。励ましの言葉は聞き飽きました。その代わり、蔑みの言葉には慣れました。

僕には文才がありません。せめて自分の感情を簡潔に著せたなら、文章家として生きる道もあつたかも知れません。

僕は有言実行が苦手です。つい大口をたたいてしまします。そのくせ実行力に欠けるのです。無言実行すら無理です。最早、努力が出来ないので。目の前に明確な目標があつたとしても、達成の為の努力がどうしても出来ません。現実逃避を繰り返してしまうのです。やらなきゃいけない事がどうしてもやれませんが。

僕は最低な性格をしています。自分を棚に上げ、他人の欠点ばかりを責めます。さらには、陰口を愉しみます。

僕は責任転嫁が得意です。自分は悪くない、と思いつつことに特化しています。周りの信用は確実に低下していることでしょう。

僕は不必要な存在なのです。

僕は思います。僕は死ねば良いと。

私はこれだけ書き、金属独特の鈍い光を放つ拳銃を手にとった。このような金属を口にくわえる行為は普通に生きている限り経験出来ない。最期の最後に貴重な経験をすることもんだ、と私は妙な感心をしている。

空は果てしなく透明で、午前の清々しさから午後の憂いに変貌していく。

口内に広がった鉄の風味は鼻から抜け、脳髄までをも支配し私の五

感を包み込んでいる。

目の前には丸く白いテーブル。今座っている腰掛けも白い。テーブルの上には自己満足のメッセージ。一度も推敲されていない。

何かを口にくわえると唾液の分泌が活発になるのは、やはり本能だろう。本格的に鉄の味に舌鼓を打つ前に済ませてしまおう。

私は引金を引いた。

想像していたよりも高い音が鳴る。

空は透明。テーブルは白い。

私は世界が反転するのと同時に紅く染まっていくのを感じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4695/>

或るエゴイストの場合

2011年1月27日03時38分発行